



地域ので 公園に芝生を

6月30日、榎町公園で、芝生の植付け作業が行われました。
天気はあいにくの雨でしたが、地域の自治会・子供会・老人クラブのみなさん約90人が集まり、20メートル四方の広場に、4,000ポットの芝生を植付けました。



「抱負を語りました。公園にしていきたい。」
真剣な表情で作業を進めていたのは、竹原小学校5年の近藤大晴くん。「作業は思ったより難しいです。芝生が成長したら、寝そべったりして遊びたい。」
と、感想を話してくれました。

地域のみなさんが協力してつくり、守る公園。地域を大切にしたいというみなさんの熱い思いと、生き生きとした表情がとても印象的でした。

間近で見る不思議に感動！マジックショー



7月18日、荘野公民館で、マジックショーが行われました。荘野協働のまちづくりネットワークのみなさんが中心となり、広島県子ども夢基金活動の助成を受けて実現したものです。賀茂川保育所の園児や荘野・仁賀小学校の児童、地域のみなさんが集まりました。
マジックショーを披露したのは、太田ひろしさん。突然鳩が飛び出したり、お金が消えたりと、目の前で次々と起こる不思議な現象に、会場からは驚きの声と歓声が上がりました。
ショー終了後、荘野小学校の6年生が、太田さんに習ってマジックを体験。平岡龍斗くんは、
「マジックを体験して、僕も将来、マジシャンになりたいと思いました」と、目を輝かせていました。
世代間交流にもつながった今回のマジックショー。ひと夏の思い出となったのではないのでしょうか。

自分の力を信じて 全国大会へ！



7月19日、市民館で全国大会出場者激励会が開かれました。
厳しい予選を勝ち抜いて、全国大会への切符を手にした21人。激励会では、出席者が全国大会に向けた意気込みを語りました。
「正々堂々、全力で戦い、夏の思い出をつくってきます。」（全日本少年剣道錬成大会出場／倉谷涼次くん／竹原中学校3年）
「前回出場した時、全日本少年剣道錬成大会に出場する、竹原西小学校6年の山下翔平くんは、
「自分の役目を果たし、チームをつなぐような試合がしたい。」
と力強く決意を語ってくれました。
出場者のみなさん、練習の成果を發揮できるよう、自分を信じて頑張ってください！」

おめでとうございます 暴走族追放標語県知事賞受賞

平成24年度の「暴走族追放に関する標語コンクール」で、豊田高等学校2年の西川裕悟さん（吉名町）が広島県知事賞を受賞しました。『暴走で 棒に振るのか その人生』という西川さんの標語は、ポスターやリーフレットなどで活用されます。



心を一つに前へ！ 思いを込めた横断幕

6月27日、メイジャ・マクレ14竹原(会長：植木利生さん)のみなさんから吉名中学校へ、横断幕が贈呈されました。

横断幕は、今年3月に行われた交流試合の記念品として製作されたもの。生徒から言葉を募り、心を大切に、みんなで一つになって前に進んでいこうという思いを込めて「心を一つに前へ！」と書かれています。メイジャ・マクレ14竹原の正光昭三さんは、「交流試合は楽しく、若い力をもらいました。横断幕の言葉を胸に、部活動など頑張ってください。」と、生徒に向けて激励の言葉を贈りました。

大きくなってね 大久野島おさかな放流

7月1日、大久野島で、おさかな放流・海岸クリーンアップが行われました。海岸のごみを、一つ一つ丁寧に拾った後、参加者約100人で稚魚を放流しました。海の環境問題や自然の大切さを、あらためて学ぶことができたのではないのでしょうか。



願いを込めた七夕飾りで 通りに彩りを

7月7日、あいふる通りで、たけはら七夕まつりが開催されました。

七夕飾りで彩られた通りには、浴衣姿で歩く人々がたくさん。短冊に書かれた子ども達の可愛いお願い事に、足を止めてほほ笑む姿も見られました。



楽しく工作！ダンボールアート

7月21日、たけはら美術館で、特別展「岡村剛一郎のダンボールアート遊園地」の関連イベントとしてワークショップが開催され、ダンボール王の岡村剛一郎さんと一緒に、工作キットを使って恐竜や動物などを作成しました。

子どもたちは、岡村さんの合図とともに作り始め、真剣に色を塗ったり組み立てたりしていました。組み立てるのは苦戦していましたが、出来上がった後は笑顔に。「楽しかった」との感想が聞かれました。同じダンボールでも、色も飾りもみんな違う、ただ一つの作品が出来上がりました。

「海猿」登場！海の危険を体感

7月19日、竹原小学校で、海上保安庁による「海の安全教室」が行われ、5、6年生の児童が、背浮きや救命胴衣の着用体験を通じて、水上での救助方法などを学びました。6年生の川本有紀さんは、「服を着たままだと、水着のときより重たく感じた。」と驚いていました。

